

がん登録担当者研修会 報告

福留 寿生 専門委員

三重大学病院・三重県がん登録室



今回の学術集会では、全国がんおよび院内がん登録研修会が別々の日に開催されました。

初日に開催された全国がん登録担当者研修会(座長 杉山裕美先生(放射線影響研究所))では、「がん登録の手引き(がん登録の原理と方法)から」(柴田垂希子先生(国立がん研究センター))、「全国がん登録における安全管理措置の現状」(西野善一先生(金沢医科大学))、「都道府県による届出支援の取り組み:宮城県からの報告」(金村政輝先生(宮城県立がんセンター))の3つの講演がありました。柴田先生からはがん登録の基礎的事項について概説していただき、西野先生は、都道府県がん登録室外部監査の事例を踏まえ、登録室が安全管理上留意すべき点について解説されました。金村先生は、宮城県の届出支援(説明会や研修会の実施、実務者育成、医療機関への情報提供)について紹介されました。本研修会は、がん登録の基礎を改めて学び直し、個人情報保護のため登録室が注意すべき点を再確認し、正確なデータを収集するための届出施設への支援の重要性を再認識するよい機会となりました。

3日目の院内がん登録担当者研修会(座長は筆者)では、「標準登録様式up to date」(江森佳子先生(国立がん研究センター))、「SEERの多重がんルール」(海崎泰治先生(福井県立病院))の2つの講演がありました。江森先生には、2018年診断症例から適応される院内がん登録ルールの変更点について解説していただき、海崎先生は、大幅に変更されたSEERの多重がん判定ルールの要点を説明していただきました。

院内がん標準登録様式の改定により登録項目が大幅に増え、多重がん判定ルールも従来と比較して複雑になりました。全国がん登録と院内がん登録の担当者がお互いのがん登録を理解することは、質の高い登録を行う上で有意義だと思います。このような研修会が今後も続くことを、実務者の一人として願っています。



第27回学術集会報告 (沖縄)参加者から

比嘉 裕子

沖縄県立中部病院 経営課



今回の日本がん登録協議会第27回学術集会は、琉球大学医学部附属病院がんセンター長増田昌人先生を学会長とし、念願の初めての沖縄開催でした。本来ならば沖縄の青い海と青い空でお出迎えしたいところでしたが、台風接近の影響もあり、あいにくのお天気にも関わらず、全国各地より大勢の方がご参加下さいました。地元開催の大会でしたので、運営のお手伝いをさせていただき、進行のアナウンスを担当致しました。他の病院の方とも交流を持つ事ができ、とてもよい経験が出来たと思います。

学術集会シンポジウムに於いて、院内がん登録の利活用、患者・地域のためのがん登録ができることについて、様々な立場から、がん登録のデータが活用されていない、データ公表の仕方やデータから患者さんが病院をどのように選択していけば良いのか等、意見が多く寄せられました。

時間が足りないほどの熱のこもった意見交換の場になり、参加された方の思いが伝わるシンポジウムになっていたと思います。

これだけ多くの方が、熱意をもってがん登録にたずさわり、それぞれの立場や考えはありますが、共通してがん登録のデータをがん患者さんに役立てて欲しいという思いが感じられる議論の場になっていたと思いました。

ポスター演題発表では、データ分析、データの利活用、院内がん登録室紹介など、病院の取り組みや精度向上についての工夫などを知る事が出来ました。私自身も初めてポスター発表を行い、おかげさまで登録室紹介ポスター賞を受賞する事も出来ました。今回は時間の都合上同じグループ以外の発表を聞けなかったことが心残りです。

2018年症例よりUICC8版にかわり、多重がんのルールも大きく変更されました。今後更になんがん登録が、がん治療において患者さんのお役にたてるよう、よりデータ精度の向上を目指し、知識を深める努力をしていきたいと改めて思える大会でした。

学術集会に参加させて頂きありがとうございました。